

(2) 総合的な交通ネットワークの確立

① 公共交通ネットワーク

これまでの取り組みと現況・課題

公共交通ネットワークの構成は、最も需要密度の高い区間に地下鉄などの軌道系交通機関を基軸として配置し、後背圏からのバスネットワークを各駅に接続することにより、都心へ向かう広範な交通を軌道系交通機関に集中させることを基本としてきました。

一方、人口増加は今日でも緩やかに続いているものの、公共交通の輸送人員は、都市構造や交通流動の変化、市民ニーズの多様化などから、平成3年度をピークに以降減少が続けています。

しかし、公共交通機関は、だれもが安心して移動できる交通環境の実現を支えるものであり、また、地下鉄などの軌道系交通機関は、積雪の影響を受けず、冬期間の都市活動を支える重要な交通基盤としての役割を果たしています。

以上を踏まえ、公共交通ネットワークについて以下の方針を定めます。

基本方向（公共交通ネットワーク）

- 軌道系交通機関を基軸に、後背圏からのバスネットワークが各駅に接続する公共交通体系を今後とも基本とします。
- 多中心核都市構造を実現していくために各拠点へのアクセス機能を向上するなど、都市づくりの目標を支える観点から公共交通ネットワークを活用します。
- さまざまな人が安心して移動できる交通環境の実現のためにも、将来に向けて公共交通を安定的に維持していく必要があることから、乗継機能の強化や利便性の向上など、公共交通の質的充実に取り組みます。

取り組みの方向

ア 公共交通ネットワークの活用

個々の公共交通の特性や役割を生かし、連携を強化することによりネットワークの充実に図ります。

- 地下鉄など軌道系交通機関
 - ・ 地下鉄については、将来の交通需要への対応、冬期間においても安定した交通機能の確保、さまざまな拠点の育成・整備、他の交通機関との連絡性の向上などの観点から、その機能向上や活用について検討を進めます。
 - ・ JRについては、必要に応じて輸送力の強化や駅関連施設の整備・改善を促進するとともに、立体化により市街地の分断解消や自動車交通の円滑化を図るなど、周辺の市街地との一体的な再整備の可能性について検討を進めます。
- バス
 - ・ 環状方向の交通需要や市街地整備の進展による交通需要の変化に対応し、きめ細かなサービスの確保を図ります。

○ 路面電車

- ・都心や都心部周辺での利便性の高い生活を支えるとともに、魅力ある都心の創造に寄与する都市の装置として、その機能向上や活用について検討を進めます。

○ 乗継施設等

- ・さまざまな交通機関により構成される公共交通ネットワークが十分な機能を発揮するためには、各交通機関相互を容易に乗り継げることが不可欠です。
- ・地下鉄・JRの駅では、バリアフリー化の推進や、必要に応じて交通広場・バスターミナルなどの整備を図るとともに、パークアンドライド駐車場や駐輪場の効果的な整備・運用を図ります。
- ・駐輪場の整備・運用に加え、適切な駐輪対策のあり方について検討を進めます。

イ 公共交通の質的充実

乗り継ぎに伴う不満の解消やさまざまな負担の軽減をはじめ、多様化する利用者ニーズに対し、満足度を向上させていくさまざまなサービスを提供していきます。

○ 移動の連続性や快適性の向上

- ・乗継施設等の充実のほか、運行ダイヤの改善や利用しやすい料金体系の検討、バス、路面電車の車両や停留所の改善などの施策を複合的に展開し、移動の連続性や快適性の向上を図ります。

○ 交通情報の提供

- ・情報通信技術を活用して各公共交通機関の時刻表、乗り継ぎ経路、料金などに関する情報を提供し、公共交通の利便性を向上します。

○ 交通施設等のバリアフリー化

- ・高齢であることや障がいのあることを問わず、誰もが安全で快適に移動できるよう、都心部や主要な駅については、周辺の道路などの公共空間も含めて、バリアフリー化を一体的に進めます。

② 道路ネットワーク

これまでの取り組みと現況・課題

道路ネットワークは、都心への不必要な自動車流入を極力抑制するとともに、周辺都市や市内の各地域の拠点へ容易に到達でき、それらの拠点相互が有機的に連結することを基本として構成してきました。

札幌を中心とする広域圏の自動車交通量は、都心と郊外、札幌と他都市との間が圧倒的に多いものの、近年では、地域の拠点や周辺都市の発展に伴い、札幌以外の都市間あるいは市内地域間を結ぶ環状方向の交通も増加しており、今後その傾向は強まるものと予測されます。

一方、都心関連交通では、通過交通がかなりの量を占めており、都心部では交通渋滞が発生しています。

以上を踏まえ、道路ネットワークについて以下の方針を定めます。

基本方向（道路ネットワーク）

- 札幌都市圏^{*31}の均衡ある発展を支えるため、周辺都市や市内の各地域の拠点へ容易に到達でき、それらの拠点が有機的に連結する道路ネットワークを確立します。
- 札幌都市圏の都市相互を結ぶ連携道路、都心への流入を抑制しながら地域間の交通の円滑化を図る環状道路・バイパス道路、都心部と地域拠点や周辺都市を結ぶ放射道路により、主要幹線道路網を強化します。
- 主要幹線道路を補完し、地域相互の連絡を確保する幹線道路や、生活幹線道路としての補助幹線道路の充実を図ります。
- 既存の道路をより有効に活用することを通じて、自動車交通の円滑化を図ります。

取り組みの方向

- ア 主要幹線道路網の強化
 - ・道路網の骨格をなす主要幹線道路の着実な整備と機能強化策の検討を進めます。
- イ 幹線道路、補助幹線道路の整備
 - ・市街地の開発状況や地域の交通混雑状況などを勘案し、幹線道路の整備を進めます。
 - ・地域の交通状況などを踏まえ、補助幹線道路の整備を進めます。
- ウ 既存道路の有効活用
 - ・交通の分散化や交差点改良、道路空間の再配分など、既存の道路をより有効に活用することを通じて、自動車交通の円滑化を図ります。

*31 札幌都市圏 第4次札幌市長期総合計画で設定している計画関連区域（札幌市が広域的な連携を進めるための標準的な範囲）のうち、市民の活動範囲の広がりや行政課題の広域化に対応するため、札幌と一体的な日常生活圏に属し、広域的な連携をとくに重視しながら諸施策を推進していくべき圏域。札幌市のほか、小樽市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、厚田村、南幌町、長沼町の10市町村によって構成する。

③ 広域的な交通ネットワーク

これまでの取り組みと現況・課題

国内外へと広がる人や物の交流を支えるため、国や北海道、周辺市町村などと連携しながら、空港、港湾およびそれらへのアクセス並びに鉄道、高速自動車道路、主要幹線道路などの広域交通機能の確保に努めてきました。

今後も札幌が北海道の中核都市としての役割を果たすためには、道内各地域から札幌への交通利便性を高めていく必要があります。また、札幌複合交流圏の市町村がさまざまな機能を分担しながら、全体としてバランスの取れた発展を続けていくためには、圏域内の交通網の充実が求められます。

さらに、地方中核都市としての機能を発揮するとともに、国際経済交流や集客交流産業を振興するためには、札幌と国内の各地域や外国との間に多様な交通手段が提供され、それらの定時性が確保されることが必要となります。

以上を踏まえ、広域的な交通ネットワークについて以下の方針を定めます。

基本方向（広域的な交通ネットワーク）

- 国や北海道、周辺市町村などと連携しながら、空港、港湾およびそれらへのアクセス並びに鉄道、高速自動車道路、主要幹線道路など広域交通機能の確保に努めます。
- 広域的な交通ネットワークと市内交通ネットワークとの有機的な連携を図ります。

取り組みの方向

ア 道内航空ネットワークの充実

- ・国や北海道などと連携し、周辺の生活環境に配慮しながら、丘珠空港の道内航空網の拠点空港としての機能向上を促進します。
- ・さらに、その機能が十分に発揮できるよう、緩衝緑地の整備などにより周辺の環境整備を進め、地域との共存を図ります。

イ 広域的な交通ネットワークと市内交通ネットワークとの連携強化

- ・インターチェンジの改良やその周辺道路の整備、高速自動車道路網と接続する主要幹線道路の機能向上などにより、高速自動車道路網と一般道路との結節性の向上を図ります。
- ・JRと各種交通手段との連絡性の向上を図ります。

(3) 地域特性に応じた交通体系の構築

これまでの取り組みと現況・課題

基礎的な都市基盤はおおむね充足しており、今後は、都市の魅力と活力の向上にむけ、既存の市街地を活用しながらきめ細かな更新を積み重ねていくことが重要になっています。

交通についても、都心や都心周辺、各拠点、郊外部といった市街地の特性によって、移動目的や提供される公共交通の水準が異なることを踏まえ、地域特性に対応したきめ細かな交通体系の構築が必要となっています。

以上の認識に立ち、地域特性に応じた交通体系の構築に向けて以下の方針を定めます。

基本方向（地域特性に応じた交通体系の構築）

- 地域のまちづくりに向けた取り組みと十分に連携しつつ、地域特性に応じた交通体系のあり方を、市民・企業・行政等の、課題や目標に対する共通認識のもとに見出していきます。
- とくに、魅力と活力の向上にむけて積極的な再構築が望まれる都心については、交通の面からもまちづくりを支えていくため、歩行者や環境を重視し、さまざまな人々が都心の魅力を享受できる交通体系の実現に向けた取り組みを進めていきます。
- 都心以外の拠点や郊外部において地域特性に応じた交通機能の向上を図るため、安全で快適な歩行者空間の確保や乗継利便性の向上などを検討していきます。

取り組みの方向

- ア 都心のまちづくりを支える交通体系の実現
 - ・人と環境を重視した新しい時代の都心交通の創出に向けた取り組みを進めます。
 - ・都心の活性化に寄与する交通施策を進めます。
- イ 地域の交通機能の向上
 - ・都心以外の拠点等の交通需要を円滑に処理するため、拠点等へのアクセス性の向上、拠点等におけるターミナル機能の強化と歩行者・自転車等の移動性の向上を図るための取り組みを進めます。
 - ・まちづくりの方向性と整合を図り、地域の特性を生かした交通対策を進めます。